

第1649回島根県教育委員会会議 会議録

日時	令和6年6月4日
自	9時30分
至	11時40分
場所	教育委員室

I 議題の件名及び審議の結果

—公開—

(報告事項)

第7号 令和7年度島根県公立学校教員採用候補者「一般選考試験」の出願状況について（学校企画課）

第8号 令和7年度島根県市町村立小・中学校等校長・教頭・主幹教諭採用・昇任候補者選考試験（令和6年度実施）について（学校企画課）

第9号 令和5年度島根県内高校3年生を対象とした進路決定に関する意識等の把握に係る調査について（社会教育課）

—————以上原案のとおり了承

—非公開—

(議決事項)

第5号 教職員の懲戒処分について（学校企画課）

第6号 令和7年度使用教科用図書採択に向けた今後の進め方について（教育指導課・特別支援教育課）

—————以上原案のとおり議決

(報告事項)

第10号 令和6年度6月補正予算案（6月10日上程分）の概要について（総務課）

第11号 県立学校の教育職員及び市町村立学校の教職員の特殊勤務手当に関する条例の一部改正について（総務課）

—————以上原案のとおり了承

II 出席者及び欠席者

1 出席者【全員全議題出席】
野津教育長 朋澤委員 河上委員 原田委員 生越委員 黒川委員

2 欠席者
なし

3 島根県教育委員会会議規則第14条の規定に基づく出席者

京谷副教育長	全議題
木原教育監	全議題
渡部教育次長	公開議題
森山参事	公開議題
大場教育センター所長	公開議題
野々内総務課長	全議題
清水(明)総務課調整監	公開議題
和田教育施設課長	公開議題
中西学校企画課長	公開議題
吉岡県立学校改革推進室長	公開議題
勝部働き方改革推進室長	公開議題
小林教育指導課長	公開議題
小室義務教育推進室長	公開議題
石橋幼児教育推進室長	公開議題
岩田地域教育推進室長	公開議題
高倉子ども安全支援室長	公開議題
八束特別支援教育課長	公開議題
太田保健体育課長	公開議題
土江社会教育課長	公開議題
山崎人権同和教育課長	公開議題
村上文化財課長	公開議題
藤原世界遺産室長	公開議題
間野古代文化センター長	公開議題
安部福利課長	公開議題
伊藤教育センター教育企画部長	公開議題

4 島根県教育委員会会議規則の規定に基づく書記

山本総務課課長代理	全議題
山崎総務課課長補佐(人事法令)	全議題
溝口総務課主任主事	全議題

Ⅲ 審議、討論の内容

野津教育長 開会宣言 13時30分

公 開	議決事項	3件
	承認事項	0件
	協議事項	0件
	報告事項	0件
	その他事項	0件
非公開	議決事項	2件
	承認事項	0件
	協議事項	0件
	報告事項	2件
	その他事項	0件
署名委員	朋澤 委員	

— 公 開 —

報告事第7号 令和7年度島根県公立学校教員採用候補者「一般選考試験」の出願状況について（学校企画課）

○中西学校企画課長 （資料を一括説明）

質問意見なし

———原案のとおり了承

報告第8号 令和7年度島根県市町村立小・中学校等校長・教頭・主幹教諭採用・昇任候補者選考試験（令和6年度実施）について（学校企画課）

○中西学校企画課長 （資料を一括説明）

○原田委員 2の2ページの5 選考上の特例の(2)と(3)のところで参考までに教えてほしいが、市町村教育委員会の教育長が推薦枠を持っていらっしゃるが、(3)は4年度から、(2)は5年度からだが、19市町村の教育長からの推薦というのは、どの教育委員会からもあったのか、偏っているのか。

○中西学校企画課長 教頭あるいは主幹教諭枠の市町村教育長からの推薦の状況についての質問であった。これは人事案件にも係るので具体的な教育事務所管内という所は差し控えさせていただくが、いくつかの教育長からの推薦はある。一定数あるが、偏ってという状況にはない。

———原案のとおり了承

報告第9号 令和5年度島根県内高校3年生を対象とした進路決定に関する意識等の把握に係る調査について（社会教育課）

○土江社会教育課長 （資料を一括説明）

○黒川委員 アンケートの内容について2点ほど質問させていただく。アンケートの表紙の報告書の表紙に山陰合同銀行の名前があるが、このアンケートにどのように関わっておられるのか。2点目が性別の回答欄のところ、男性・女性・その他・回答しない、の4項目あるが、性的マイノリティの観点から回答しないという項目があるのは分かるが、その他という項目を、あえて入れている意図を伺いたい。

○土江社会教育課長 まず、1点目、山陰合同銀行については、このアンケート調査の業務委託をお願いした企業である。2点目、性別については、性的マイノリティの観点から、

答えたくないという方もいらっしゃると思う。また、性自認といったところでいずれでもないというふうに答えたい方もいらっしゃるのではないかとこのところで、その他という項目を設けている。

○黒川委員 あえてというところ。分かった

○野津教育長 今、黒川委員の発言の中にあつた、山陰合同銀行のくだりについて、かわりは、課長が答弁したとおりである。資料の記載については、いったん、名前が入つたものを事前にお配りした関係で、今、御質問があつた。この会議においては、委託先の名称を落とした資料を配布しているので、差換えがうまくいかなかつたことをお詫び申し上げます。

○原田委員 小中学校のふるさと教育、高校での探究学習であるが、隠岐島前高校に視察に行き、子どもたちが探究学習の授業を実践的に地域の中でいきいきと取り組んでいる姿を見て、素晴らしい取組だと思った。ふるさと教育を小学校、中学校全ての地域でして、高等学校でも自分で課題を見つけてグループという形で、ディスカッションしながら行つている。小学校、中学校、高校という連続性でいうと、小中学校でしっかりやつていることを高等学校にどのような形で引き継いでいるのかなと思う。高校はいろいろな地域があるから難しいかもしれないが、おそらく、小学校の引継ぎで中学校に、こんな学習や取組をやつたと。中学校に行つたら被るかもしれないが、狙いを変えてやるあたり、これはやつているからここは行かなくていいと言つた取組もあるかもしれない。それが高等学校にどのように引き継がれて、子どもたちが経験したことが考えてみたけども、学校の先生たちが、そういう資料とか、小中学校でも取り組んできた学習の継続を、知つていて生かしていくことがあつてもいいのではないかと思う。具体的に難しいかもしれないが、そのあたり、あえて、今後の取組に、連続性、継続を考慮しているなら、しっかり積み上げたものをより生かしていくことも当然大事で、引継ぎや継続はどうかということをお教へいただきたい。

○岩田地域教育推進室長 まず、ふるさと教育の連続性、継続性については、高校においては、小中学校のふるさと教育の学びを踏まえる、そして小中学校は、高校の学びを見通すことが大切であると思つている。実際、小学校のふるさと教育のサポートを高校生とうかがつて、一緒になつてふるさとについて考える。あるいは、高校生が、学習の成果を中学校で発表する。こういったことで中学生に学びの見通しを持たせるといったことを行つている高校もある。こういったところが県下全体にもう少し広がるように、していきたい

と思っている。教育委員会では高校生の学びの成果発表の場である、島根探究フェスタを開催しているが、中学校にも案内をして先生方を含めて、そういったものを広めてもらう機会としている。

○小林教育指導課長 教育指導課の方から、総合的な探究の時間の狙いについて、説明をさせていただく。総合的な探究の時間の目標であるが、教員は当然、その目標を理解した上で授業に携わっている。この目標が、総合的な探究の時間を通して、生徒自分自身のあり方、生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための、資質能力を育成するということで、小中学校のふるさと教育がベースとなって、更に発展させていくという目標であるということ。もう1点、これは事例の紹介であるが、昨年12月に矢上高校普通科地域未来探究発表会に参加した。そこから御紹介するが、昨年の矢上高校の地域との関りのコンセプトであるが、令和5年度の探究活動では、自分たちのやりたいこと、できること、必要とされることの3つの観点から地域で活動できないかを考え、地域にプレゼン、コメントやアドバイスをいただいたり、逆に地域の活動を教えてもらったりという学び合いからスタートをしたと。そしてまた、地域には、協育パートナーさんと作戦会議を行っている。地域の協育パートナーさんから地域の現状を教えてもらったり、課題解決の企画を立てたりした。いつどこで何をするのか、誰に対して行うのかなど、細かく考えることを学んだ。そこで、参考までにグループでの発表を見た。11グループあったが、一部紹介すると、「保育士を救え」というテーマを設定したグループは将来、保育に係る職に就きたいと思っている生徒が集まっている。そこで、高校生が保育士の負担を少しでも軽減するために、活動したことを発表した。もう1つは、邑南町の提供医療を充実化させる。それから、空き家の有効活用ということをテーマに、生徒たちがそれぞれテーマ設定というのが一番大切であるということも教員も言っていた。テーマに基づいた研究に取り組んで、こういった発表をしているという現状である。

○原田委員 このアンケートは、当然、高校でも今後の学習に生かされると思うが、小学校、中学校の方に小中学校で積み上げたものが、高校で頑張っているということを返す役割もあるのか。

○土江社会教育課長 アンケートについては、本日、教育委員会議に報告させていただいた後、公表させていただく。各市町村教育委員会、あるいは、高校等にも情報提供させていただいて、各機関でのアンケート結果の活用を期待しているところである。

○生越委員 アンケートの報告書を見て感じたが、クロス集計を見ると、小中学校のふるさと教育にとっても関心をもって楽しんでやってきた生徒が、やはり、将来的に、ふるさとをなんとかしたいなという思い。これは、微妙な差であると思うが高いという感じに受け取っている。やはり、小中学校での学習の関心の持ち方というのは、非常に重要だと思ったので、是非、これを市町の方にも見ていただくといいと思う。

○朋澤委員 県内への進学、就職を決めた理由や、県外への進学や就職を決めた理由、県内にしても、県外にしても自分の意志が前面に出て子どもたちが選択をしていると思うと、このアンケート結果はうれしいなと思いながら見せていただいた。その中で、資料3の5ページの県内への進学や就職を決めた理由の比較のところ、県内が住みやすい、生活が便利とあるが、その詳細が知りたい。島根県の生活が便利とあるが、子どもたちは何を指して便利と言っているのか。

○土江社会教育課長 アンケート調査報告書の9ページのところで、出雲地域・石見地域・隠岐地域別の県内への進学・就職を決めた理由を圏域別に分析しているものがある。特に県内が住みやすい、生活が便利と回答したものが、出雲地域で一番高くなっているということがある。圏域別の特徴があり、隠岐地域では県内にやりたい仕事や学びたい学部・学科がある、石見地域では自分が今住んでいる地域や島根県が好き、の回答率が高いなどの特徴がある。比較的、県内は住みやすいという回答は出雲地域の生徒が回答しているものがあるが、住みやすさというのは物理的なものと言うところだけではなくて、人と人とのつながりということも含めたものではないかと思っており、そういうことも総合的に反映された回答と思っている。

○朋澤委員 それが数字的に2018年は36.8%、この度の調査が51.6%と伸びているところをみると、いいことだな、うれしいなと思っている。そこに自分の生活に意識がいつているということが表れている気もして、ありがたいなと思った。別件であるが、先ほど、小中学校と高校との兼ね合いのところ、今年度から地域の放課後児童クラブを持たせていただいている関係で、先日、高校のコーディネーターさんから連絡があつて、高校生が小学生と関わる機会はできないのだろうかという相談を受けてとても嬉しかった。やはり自分たちの近い将来、小学生からすると中学生、高校生、自分たちのお兄さん、お姉さんの姿を見るのは、すごく励みになる。自分の将来像を描きやすい、また、憧れる、そこに近付きたいという気持ちを育むことから、やはり自分たちより少し大きい人と関わるということはすごくいいことだと思っている。コーディネーターさんが、私に声をかけてくだ

さったというのも高校から小学校の児童クラブ連絡があったというよりも、そのコーディネーターさんと私は友達ではないが、町の中の他の会議の場で出会って、そういう話になったということもあるので、大人もしっかり自分の町内、市内の方々と繋がることによって、子どもたちの経験の場を増やすことができるということもあるので、子どもたちから、いろいろ言い出したり働きかけがあることもあるが、地域の者としては地域の者同志の繋がりを深めていく、繋いでいくということが大事だなと思ったので、社会教育は大事だと思っている。意見である。

○野津教育長 さきほどの社会教育課長の説明で、報告書の9ページのグラフだが、県内は住みやすいというところ、地域別に^③出雲部が低かったという説明であったが、これは有意な差ではない、地域でそんなに差はないというふうに私は捉えている。いずれの数字も前回調査の数値を上回っており、これで地域別に差がある、確かに現状としては、生活が便利という社会インフラの面では差があるかもしれないが、それぞれ住んでいる地域の話をするのであれば、あるいは、県全体を子どもたちがそう捉えているのであれば、これは有意な差ではないとわたしは捉えている。私も少し、資料3の5ページ、進学や就職を県内、県外別に決めた理由の③のグラフで、前回調査と比較して大きく伸びている、2つ目の県内にやりたい仕事や学びたい学部・学科があるということが挙がっているが、具体的に増えたのが、島根大学材料エネルギー学部ぐらい。県立大学の再編はあるが、大きな意味ではそれだけなので、それが大きく影響したということではないと思っている。要は、県あるいは県の教育委員会が進める施策の効果が一定程度あったのだろうと、私どもが言っている子どもの将来の選択肢を大きく広げるということについて、県内にある仕事や学びの場が高校生に幅広く伝わったと、その中で選択肢に入っていったというふうに捉え、結果であると思う。したがって、方向性は今後も堅持して、しっかり高大連携、あるいは就職に関しても、大人が社会見学、あるいは、企業に応募前体験等といった手法の動きにも出ている。生のものを見る、大学も行ってみる、あるいは、大学から来てもらって説明を受ける、あるいは、会社の研究をする、説明を受ける。こういった直接的なことが子どもの進路決定に大きく影響しているというデータが、この5年間、施策としていろいろな関係者の方、学校関係、教育委員会だけではなく、様々の方が努力した結果がここに出ているということが、このアンケートで分かった最も大きな事実だと思うので、こういったところをしっかりと把握して取り組む必要があると考えている。そして、その上の県内が住みやすい、先ほどのお話の部分であるが、生活が便利という言い換えだけではない、県内が

住みやすいというのは、片面で、都市部が暮らしにくいということの反面の選択肢でもあろうと思う。都会の過密であるとか、そこからくる住宅の高さ、新規マンションが1億円以上、あるいは満員電車での通勤、こういったところの反面があると思う。そして、もう一つは、車があれば、都会より便利。すぐ車で、50メートル先に買い物に行ける。しかもきちんと駐車場があるが、都会のコンビニには駐車場がないのが当たり前。食堂にもなくて当たり前なので、そういったものを見ると、車があることで生活の視点が変わる。そういったことが高校生にはあまり伝わってない。ただ、実感はしているはずで、すぐ親御さんがあっちこっちに送る。体験はしている、それを意識付けしたら、ああ、そうなんだと。そういったことが少しずつ理解されているのではないかと思う。3番目の親元から通いたい、家族の近くで生活したい、という回答も、経済的な理由も含むものであろうと思う。家のローンがないだけ、家賃がないだけ、収入の減をかなり補えることがある。もう一つは、ふるさと教育等々の結果によって、実家大好き、地元大好き、島根大好きという子が増えているのは間違いない。こういうふうに、このグラフから見られるだろうということで、その大きな3つの柱、選択肢をしっかりと示す。都会と地元の暮らし方、都会が必ずしもいいと無条件に言える訳ではないという話をして、そもそも住む場所として、実家、地元、島根が好きというマインドの養成。我々がこれまで進めてきたことから結果が出ているので、引き続きこういった施策を強力に進めていく、次の第二期の島根創生計画の中にしっかりと取り込んで、県全体として取り組む。教育委員会だけの取組ではないので、知事部局、様々な分野からの生活を構成する、地域を構成する取組は、多岐、多様に渡っている。そして民間の方、あるいは親御さん、企業、大学といった具体的に子どもたちの進む先、総合的に県民総力を挙げてこういったことを進めていくことが、島根県の維持、発展に繋がるのではないかというふうに、この結果を捉えている。

○河上委員 教育長の発言からもこの島根の教育の最大の魅力は、やはり、ふるさと教育だと実感する。昨年、知事の御報告から新聞報道等でふるさと教育の時間数減と受けとめられるような発表があった。この会議の中で、実際はそうではないという御説明をいただいているが、一般に誤解をされたままではないかと思うので、ここで、県ではやはりこの地域との連携協働による、ふるさと教育を大切に引き続き推進していくことを、今一度、大きくアピールをするべきではないかと思うので、お願いしたいと思う。

○土江社会教育課長 ふるさと教育の見直しについては、昨年度も教育委員会会議でも御説明をさせていただいた。見直しそのものについては、市町村教育委員会とお話をしてお

り、いずれの市町村からも現時点では御理解をいただいているところで、確認作業を進めていただいているところである。その中で、今、委員がおっしゃった様に、連携協働による、ふるさと教育の大切さというのは、市町村の教育委員会の皆様も、地域の理解をしていただいているところと考えており、引き続き大切な教育活動であるということを、PRして参りたい。

○黒川委員 教育長や他の委員さんの発言にもあったように、私からはふるさと教育、地域の大人として、関わらせていただいているということと、保護者、目線でこちらの方の受けとめということで、やはり、ふるさと教育をこのように、子どもたちが、島根県が大好き、地域が大好きで、そのふるさとの愛着や誇りに繋がっているということと、自分への進路に直に関わっているということ、関わる大人として、このようにアンケートの結果として見えたことが、とてもうれしく思う。教育長が言われたとおり、これからも学校はもちろんだが、やはり、地域と保護者も皆そうだが、子どもたちがこのように島根県のことを、こういうふうに思っているということ、やはり、情報共有しないといけないなというところで、自分で関わっていたことが間違いではなかったと。今、つくづく、よかったなと思う。これを、自分の近くにいる大人にも話をしたいなと思うので、関わる皆さんにも情報共有をよろしくというところのお願いである。

———原案のとおり了承

野津教育長 閉会宣言 11時40分